

☎1002928 高齢支援課 ☎(338)6846 ・ ☎(371)1200

9月は認知症を知る月間

灯そう希望の光 暮らそう工夫と共に!

認知症は、病気の種類やその進行の程度に応じて、認知機能が低下して症状が出てきます。出現する症状は人それぞれ。生活の困りごと人もそれぞれ。だからこそ十人十色の生活の工夫があります。

認知症は誰もがなりうる脳の病気です。あなたは認知症になった時、どのように生活していきたいですか？

そのためには、どんな工夫が必要だと思いますか？

9月は関戸公民館でもたくさんの希望のメッセージを展示します！

心配しなくて
いいからね。

(認知症ご本人)



自分らしく
生きていたいね

(オレンジパートナー)

孫と
オソギミが
たのしい。

(認知症ご本人)

あなたの
おはなし
きかせてください。

(オレンジパートナー)

母が「人生、
楽しかった」と
思えるように

(介護者家族)



1人で抱えこまず
自分にも相手にも
寛大に。頼れる人は
たくさんいることを
忘れないで下さい!!

(認知症について学んだ大学生)

認知症は誰にも
知られない病気である。
いろいろ工夫すれば、
人に迷惑をかけずに
生きることが出来る。
自分の出来る範囲を
広げたい。

(認知症ご本人)

そのとき、
そのとき、
ありがとう

(認知症ご本人)

認知症になっても
見える景色はかわらない
余分なものがはき取られ
素のまま生きる

(介護者家族)



※オレンジパートナー…認知症の方やその家族と共に活動する「認知症に理解ある伴走者(登録制)」

「みらいの会(認知症当事者の会)」「いこいの会(認知症の介護者の会)」の皆さんのいろいろな工夫

もの忘れが心配だから、検査を受けてみた。今は、認知症になったらどう生きていくか考える時間になっている。

私一人では行けなくなったけれど、息子に送ってもらって、好きな美容院で、お気に入りのネイルとヘアスタイルを続けています。

施設の支援者と仲良くなって、介護の情報を集める工夫をしています。

認知症の妻の立場に立って「どうしてできないのかな」と理由を考えています。

家だと妻が何でもやってくれちゃう。通所リハビリに行くとお励まされてうれしいので、頑張っています。



介護に悩んだら「いこいの会」でみんなに話します。それがストレスをためない工夫かな？

できる家事(洗濯、ベッドメイキング)はよくやっています。料理はほぼやらないけれど、一部は夫婦で作るように努力しています。

認知症の妻は散歩中に花を見ると笑顔になるので、散歩は欠かせません。その妻の笑顔を写真に撮ることが私の役目です(笑)。

● たま広報へのご意見をお寄せください ●

広報紙に関するご意見やご要望などがありましたら、次のフォームからお寄せください。
☎1012584 秘書広報課 ☎(338)6812

